News Letter

女性研究者活動支援室

2015.11
第2号

大学共同利用機関法人 情報システム研究機構　ROIS — Research Organization of Information and Systems

平成27年度女性研究者のための論文執筆合宿セミナーを開催しました！

2015年9月20日～22日

平成27年9月20日～22日、国立情報学研究所軽井沢国際高等セミナーハウスにおいて、「平成27年度女性研究者のための論文執筆合宿セミナー」が開催されました。講師7名、スタッフ3名等を含む総勢23名が、初秋の軽井沢へ集まり、セミナーやネットワーキングに参加しながら論文執筆にも集中する充実した3日間となりました。

PROGRAM

9月20日(日)

- 13:00▸13:20 開会式(主旨説明、オリエンテーション、自己紹介)
- 13:30▸15:30 セミナー①　興野 登氏　「研究者に求められる科学技術英語の攻略法」
- 16:00▸17:30 セミナー②　山本 佳世子氏　「研究費が増やせるメディア活用術」
- 19:00▸20:00 ロールモデルに学ぶ①　東 久美子氏
- 20:00▸21:00 情報交換・ネットワーキング
- 13:30▸18:00 論文執筆

9月21日(月)

- 9:00▸10:30 ロールモデルに学ぶ②　郷 通子氏　「研究者として生きるとは？」
- 10:30▸11:30 ロールモデルに学ぶ③　新井 紀子氏　「法学→数学→情報・教育→人工知能→？」
- 8:30▸11:30 論文執筆
- 13:30▸15:00 セミナー③　横山 広美氏　「分かりやすい日本語解説を書くには？」
- 15:20▸16:00 論文相談会・ワークライフバランス相談会
- 16:00▸17:45 自由討論①　(合宿・ROIS躍進プログラムについて)
- 19:30▸21:00 情報交換・ネットワーキング
- 8:30▸18:00 論文執筆

9月22日(火)

- 9:00▸10:00 ロールモデルに学ぶ④　平田 たつみ氏
- 10:00▸11:30 自由討論②　(先輩女性研究者との座談会)
- 11:30 閉会式　解散
- 8:30▸10:00 論文執筆

最初に、情報・システム研究機構理事で本合宿の主催者であるROIS女性研究者活動支援室長の郷通子理事から、「論文を書きたい方は、この合宿で思う存分書いて下さい」と開会挨拶が行われました。次に、国立極地研究所1名、統計数理研究所3名、国立情報学研究所3名、国立遺伝学研究所2名の参加者より自己紹介が行われました。

●【セミナー】

講師　興野登氏

合宿期間中に外部講師による3本のセミナーが開催されました。セミナー①として、公益社団法人日本工業英語協会副会長で、科学技術英語教育センター長の興野登先生より、「研究者に求められる科学技術英語論文Writingの攻略法」と題して、講義が行われました。興野先生は「科学英語論文作成法、科学論文作成のための基礎知識、科学英語論文ライティングのための慣用表現」など、たくさんの内容を準備して下さいました。英語論文の基本として「3C(Correct, Clear, Concise)」や、基礎英文法についてふれ、名詞と冠詞や時制などについて、複数形単数形を選択する上での根拠、定冠詞にする際の特定の理由など、簡潔に解説してくださいました。また、わかりやすい英文を書くために「一語一義、論理性、レトリック法、文の表現の統一、能動態をできるだけ使う、抽象名詞は動詞で表現、トップヘビーな文を避ける」など、具体的な英文表現方法について教わりました。2時間という時間の制約があったため、残念ながら、科学英語論文の添削をしていただくことはできませんでしたが、先生のオリジナルテキストの巻末には演習問題がついており、参加者は、早速その問題を解いていました。

続いて、日刊工業新聞社論説委員兼編集委員の山本佳世子先生より、「研究費が増やせるメディア活用術」と題して、①研究費を増やすための科学技術コミュニケーション、②技術リリースの注意点、③マスメディアとのつきあい方をテーマに、ご講演をいただきました。「どこかのメディアで載せて欲しい」と

講師　山本佳世子氏

思ったときに、どのような媒体に声をかけたら良いか、印象度を高くするためにはどのように書いたらよいか、そしてリリースをするためのポイントと共に、「誰が何を開発したか、オリジナリティと技術のポイント、その特徴と効果、社会的な意味合いの4つに整理をしてリリース要旨を書くと良い」との具体的なアドバイスがありました。「社会が自分の研究をどのように見ているかを知るチャンスとなるので、マスメディアとは長くつきあっていって欲しい。リリースをもらってから、すぐ記事になることも、時間がたってから記事になることもあるので、必ず連絡がつくようにしておくということが大事」とのアドバイスが印象的でした。

講師　横山広美氏

2日目には、東京大学大学院理学系研究科准教授・広報室副室長の横山広美先生から、「分かりやすい日本語解説を書くには？」と題して、ご講演をいただきました。第1部は「科学をわかりやすく伝える」をテーマに、①プレゼンのコツ、②ライティングのコツ、③申請のコツ、④メディア対応について、第2部は「科学者の信頼」として、日本における科学「信頼の危機」、「信頼とは何か」についてのお話でした。「STAP細胞問題、震災の問題、BSE問題など、科学に対する『信頼の危機』が起きているので、科学技術に関する情報を市民と共有して、オープンに話す環境を設けることが科学への信頼を得る対応の1つとなる。」「科学者の社会的役割は、社会の要請に応答すべきであり、科学行政や現場での『ゆがみ』を感じる今だからこそ、科学者には社会からの信頼が不可欠であり、情報の透明化とコミュニケーションが必要」と語られていました。科学者はどのようにあるべきか、全ての科学者にとって、最も重要であり且つ根本となる問題について考えさせられる講義でした。

●【ロールモデルに学ぶ】

合宿セミナーでは、「ロールモデルに学ぶ」と題する先輩女性研究者の話をお聞きする機会を設けました。研究所の垣根を越えて先輩女性研究者のお話を聴く機会はほとんどなく、この企画は初めての試みでした。情報・システム研究機構の郷通子理事、国立極地研究所の東久美子教授、国立情報学研究所の新井紀子教授、国立遺伝学研究所の平田たつみ教授にお越しいただき、研究の内容、研究者としての生き方、これまでの研究者人生の中で行ってきた事柄等についてのお話をお聴きしました。

国立極地研究所の東先生からは、ポストを得るまでの道のりやフィールドでの実体験についてのお話がありました。大学院を卒業した後、正式な職員になるまでに時間がかかり、焦ることもあったが、困った時に助けてくれる人もいたおかげで、正式な職員になることができたそうです。南極研究に興味を抱いたのは大学4年生の時で、南極へ行きたいと思ったけれども、その頃女性は南極へは行くことができなかったそうです。最初は遠慮がちに南極観測隊に参加していた女性たちも、今では女性の方がパワーがあり、やる気のある人が多くなっているとのことです。しかし女性が南極へ行くことが普通になった現在でも、「やっぱり力が無い」「重い物を持てない」と考える人も中にはいるとのことで、「ROIS女性躍進プログラムのように、女性研究者を増やすために支援をすることは必要ではないか」との女性研究者支援プログラムの必要性について語っていらっしゃいました。

講師　東久美子氏

情報・システム研究機構の郷理事からは、大学院生の頃にご結婚をされて、配偶者と共にコーネル大学でポスドクをしたこと、ご自身が九州大学の助手に決まったのは、配偶者が九州大学にポストを得てから2年後だったこと、子育ての大変な時を乗り切り、名古屋大学で教授のポストを得たのも、夫が京都大学の教授になった2年後、それぞれが魅力のある職場に行くことを決心したこと、それについての家族の理解があったこと等についてのお話がありました。先生からは若手の女性研究者に向けて、「疲れていることもわからなくなってしまうので、頑張りすぎると怖い。しかし子育て期にはパワーがある。自分でルールを決めて、無茶をして体を壊さずに、尚且つ、どこかで馬力をあげて、前後がない時にはがんばって欲しい」とのアドバイスをいただきました。

講師　郷通子氏

国立情報学研究所の新井紀子先生からは、研究者になるまでの経緯と、新井先生が進めている「東ロボ」プロジェクトの話を伺いました。先生は、法学部の出身で大学4年生の時に数学の研究をしたくてイリノイ大学に留学され、その間にご結婚をされたそうです。「優秀な男性と結婚したのだから、家事分担などしないで、嫁としてちゃんとやりなさい」と周囲から言われたことを語っていらっしゃいました。現在行っている「東ロボ」プロジェクトは、AIによって社会にどのようなことがおきるのかを身近な問題にするためにはじめたそうです。文系から出発したがゆえに、最初は論文を書くのに不利だと感じたけれども、今は、霞ヶ関やマスコミがわかる言葉でご自身の研究を語ることができるので、文系であったがことが有利に働いていると感じているとのことです。「その人しかできない仕事があるので、必ず45歳まで、『変な人』として生き残ることが大切で、その後は幸せな人生が待っている」と若手研究者にエールを送られていました。

講師　新井紀子氏

講師　平田たつみ氏

最終日には、国立遺伝学研究所の平田たつみ先生のお話がありました。平田先生は博士課程2年の時に出産をして研究と子育てを両立してきたそうです。子育て中は出張の際に子どもをみてくれる所を探すのが特に大変で、一緒に出張に連れていくために学校を休ませ、子どもの担任の先生から怒られたことや子どもの世話をしてくれる人を探した経験などを話し

ていらっしゃいました。そして、子育てと研究の両立をしやすいように、フェローシップ型のPD制度の創設をずっと男女共同参画学協会連絡会に提言し続けてきたので、「自分自身、RPD制度の『産みの親』だと思っている」とのお話をされていました。「行政は子育て中の女性研究者を支援しようとしているので、具体的・建設的にどのような支援が必要かを女性研究者から発言をしていくことが大事。子どもが小さくて一人前に働けないと考えるのは間違っている。休み続けようが、周りから煙たがられようが、研究に邁進すべき。子育て中の女性研究者の背中を押すことこそ、自分がすることだ」と話していました。

●【ネットワーキング】

女性研究者どうしのネットワーク形成を目的として、ワーク・ライフ・バランスやキャリアメイキングをテーマに、意見交換が行われました。

ある研究者の「パーマネントのポストを探すと、家族と別居しなくてはならない。キャリアを選ぶべきか悩んでいる」との発言に対して、「上のポストへ行くと同居は益々難しくなる」、「子どもが小さい頃に夫と一緒にいることができずに困ったが、何らかの解決策が出てくる」との意見が出されました。

「女性があまり積極的な行動をすると、男性から見て生意気と見えてしまう場面もある」との発言に対して、「時々失敗するが、うまくいかない時でも誰か別の人が救ってくれるのでなんとなくうまくいく」との意見も出されていました。

男性が多い職場で女性が小人数という職場環境での働き方については、「男性ばかりだと尻込みをしてしまい、とてもそこに入って行く気になれない」、「必ずしも女性が周りにいた方が楽とは限らない」、「男性の中の方が一度認められれば逆にやりやすい」等、様々な意見が出されました。「女性どうしのネットワークが必要」との声もあり、「推薦状をもらう時にも、国外の女性とのネットワークを築き、国外から推薦状をもらうということが重要で、その効果は大きい」との発言もありました。

子どもとの接し方の悩みについての発言もありました。「研究のことを考えていると子どもがわざと邪魔しにきたりする。かわいいのですぐそっちにいってしまう。研究と子どもとのふれあいとどの辺でバランスをとったらいいのかとても難しい」に対して、「家族で夕飯が食べられず学童で食べさせてもらっているが、子どもには、『みんなに育ててもらうということはとてもいいことなのよ』という雰囲気に持って行っている。」「『構ってくれなかった』と文句は言われるが、女の子だったら、お母さんに働いて欲しいと思っていると思う」など、母親が仕事をしていることを子どもに理解してもらうための方法について様々な意見が出されていました。

参加者は、様々なプログラムへの参加を通して、女性研究者どうしの緩やかな絆を築き、自然豊かな環境の中で論文執筆を行い、充実した3日間を過ごしていました。

●女性研究者の集う会（立川地区）を開催しました！

8月12日、国立極地研究所会議室において、「郷室長と女性研究者の集う会」を開催しました。会場には、統計数理研究所より6名、国立極地研究所より3名の参加者があり、女性研究者のみならず、URAや事務職員が参集しました。最初に郷室長から、「女性研究者のための論文執筆合宿セミナー」について、「参加する女性研究者のニーズに添う内容となるよう、参加者のニーズに合わせて内容を組み立てている」との説明がありました。その後、女性研究者から、「女性研究者比率の目標値とその達成見込み」についての質問や、「統計・情報分野では科研Aを取得する女性がほとんどいない。大きいファンドを取る女性を育てることが必要」、「男女共同参画のためには執行部に女性がいると良い」「マネジメント力をつけるために、マネジメントセミナーなどを行うと良い」「大学院生も支援の対象とした方が良いのではないか」等の意見が闊達に出されました。

ROISの子育て支援制度のご案内

保育利用料一部補助制度を開始しました！

研究活動（業務）と育児の両立を支援するための制度として、**A）病児、病後児保育、B）夜間保育、休日保育、学童保育、C）学会出張時の保育**を利用した際に、その費用の一部を補助する「保育利用料一部補助制度」を開始しました。女性の研究者のみなさま、女性研究者を配偶者に持つ男性研究者のみなさま、本制度を使ってみませんか。詳細は女性研究者活動支援室HP（yakushin.rois.ac.jp）をご覧下さい。

ベビーシッター派遣事業割引券等発行制度が変わりました！

ROISでは職員の「仕事と家庭の両立支援」の一環として、平成23年9月から、一般財団法人こども未来財団の「ベビーシッター育児支援事業」を利用して、「ベビーシッター派遣事業割引券（旧ベビーシッター育児支援割引券）」を発行してきました。平成27年度も、引き続き、「ベビーシッター派遣事業」を利用して、機構の職員を対象に割引券を発行します。

今年度から、「双生児等多胎児家庭育児支援事業」、「産前産後休業時育児支援事業」の割引券が加わりました。女性研究者活動支援室HP（yakushin.rois.ac.jp）にアクセスして、制度内容をご確認の上、どうぞご利用下さい。子育て中の方のご利用、お待ちしています！

各研究所「女性研究者活動支援室」の活動

●国立情報学研究所 NII女性研究者活動支援室設置にあたり―

情報・システム研究機構では、出産や子育てといったライフイベント中の女性研究者の研究活動を支援するための「ROIS女性躍進プログラム」が始動し、国立情報学研究所（以下NII）にも女性研究者活動支援室が設置されました。

NIIでは、女性研究者の大半が教授であるなど、研究職のキャリアパスにおいて輝かしい活躍をされている女性研究者が多いのが特徴です。独創的な研究や連携を生かしたマネジメント力を発揮されるなど、大変パワフルに活躍されています。情報学は、理系や文系などの垣根があまりない学際的な分野といえます。NIIでは多様な分野から研究者を登用しており、情報系分野は女性が活躍しやすい研究フィールドといえるのではないでしょうか。

NIIは、情報学の研究と、学術情報基盤に関する事業の2つの主軸があります。さまざまなサービスを実現するにあたり、多様な学術機関と「共考共創」、共に考え、共に創るという気持ちで推進しています。同じように、女性が働きやすい職場、研究を行いやすい環境を、みんなで考え、創造していきたいと考えております。当室では、女性研究者をエンカレッジするため、所内での情報交換の場を設けたり、若手からの声を吸い上げる場を作ったりといった活動をしていきます。

今後、情報学研究所で働く女性研究者を増やすことを目標にするとともに、今を活躍する女性研究者の研究支援や環境整備を目指していく所存です。

国立情報学研究所　女性研究者活動支援室
室長　本位田 真一（NII副所長）
室員　計宇生　（アーキテクチャ科学研究系教授）
岩田 裕美　（総務部長）
濵 由樹　（総務部総務課長）
田村 俊一　（総務部総務課副課長）
岡本 裕子　（研究戦略室URA）

●国立遺伝学研究所 支援室活動レポート

遺伝研女性研究者活動支援室の運営は、室長仁木宏典教授（原核生物遺伝研究部門）、安池友紀主任（総務・教育チーム）、小林百合室員（リサーチ・アドミニストレーター室）の3名で行っています。研究者目線から所内の女性研究者の支援にあたり、また事務面では安池主任が様々な支援者の事例に合わせてしっかりサポートしています。また機構本部の女性研究者活動支援室とも支援の方法について意見交換を度々行い、情報共有にも努めています。

H27年度上半期はまず遺伝研女性研究者活動支援室の活動を所内の方々に知ってもらうことを主眼として、所内の女性研究者と昼食をともにしながらの意見交換会いわゆるランチョンミーティングを5回行いました。これには桂所長をはじめ荒木副所長にも参加していただき、遺伝研における女性研究者支援のあり方について幅広い情報交換を行う良い機会となっています。

ROIS支援室からの女性研究者支援の制度は、一斉メール配信システムを通じて行っています。多数の非日本語圏出身の研究者も所内に勤務していることから英語表記での案内にも務めています。積極的な女性研究者支援制度の案内は制度の利用の促進につながっており、論文合宿セミナーには2名の参加希望者が、また保育料支援制度、研究支援員制度利用にはそれぞれ1名の申し込みがありました。

さらに女性研究者支援の一環として子育て支援にも力を入れています。子供を連れての転勤には不安がつきものですが、着任前の研究者に三島地区の保育園情報の提供を行いその解消に務めています。

所内の支援活動の拠点としてまた子育て女性者の利便性を図る目的で多目的保育室兼遺伝研女性研究者活動支援室を所の本館一階に開設しました。7月4日にはその開所式を行いました。所員やその家族46名が参加し、多目的保育室の今後の運用についての説明を行い利用者と意見交換を行いました。

今後も女性研究者が研究しやすいような制度運用や、環境作りを進めていきたいと考えています。

多目的保育室兼遺伝研女性研究者活動支援室開所式

女性研究者活動支援室のWebサイトがオープンしました！

仕事・研究と家庭を両立させるための支援制度、ワーク・ライフ・バランス／キャリア相談制度、セミナー等の情報を掲載しています。見逃せない情報満載です。ぜひご活用下さい！

http://yakushin.rois.ac.jp/

情報・システム研究機構　女性研究者活動支援室
〒105-6033 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー33階
Tel:03-3433-1352, 1351　Fax: 03-3433-5062
E-mail: danjo-jimu@rois.ac.jp　http://yakushin.rois.ac.jp/

●編集後記

今年度の重要なイベントの1つである合宿セミナーを、清々しい秋の軽井沢で無事行うことができ、ほっとしています。お天気にも恵まれ、木々に囲まれた素晴らしい環境の中で実施することができました。本部、各研究所、各センターの皆様、ご協力ありがとうございました。もっともっと魅力的なプログラムを提供できるよう、スタッフ一同、がんばります。

平成27年11月発行